

---

# むゆるふ

村雲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

むゆるふ

### 【コード】

N0152H

### 【作者名】

村雲

### 【あらすじ】

結局の話、僕が泣いた理由とか。

飛べると思ったんだ

僕は飛び降りた

廃墟のビルからさ

地面は思ったよりも近かった

結果は知ってたよ

僕は最後の呼吸をするということ

そして僕を囲む器の群れは

僕という無残な器をみるということ

だけど僕はもつと凄いことを期待してたんだ

だって孤独の群れのうごめく地面は

ここからじゃ

全く見えもしなかったんだから

僕は空を飛んだんだ

一瞬だけどね

だけど一瞬なんて

人の生きた時間と何も変わりやしない

そしてもつと言うと僕は地面から飛び降りたんだ

何処へって？

空にさ

わからないかな

だって人はいつだって地面に縛られてる

空に墜ちてるとき

僕が感じたものはひとつだけ

“自由”さ

それ以外はなにもない

あったとしても意味は無い

知ってたかい？

空には僕を隔てるものは何もなかったんだ

いつまでも墜ちていった

はじまりは僕の一步だったんだけど

それに終わりはなかった

思わず泣いたよ

だってこれが自然だってやっと気づけたんだから

今まではとても辛かった

歩けるはずのない地面を歩いてさ

空に墜ちてると

とても気分が良かった

ただ気分が良かったんじゃない

とてもだ

下に墜ちてるはずなのに

身体中の血が逆上ってるんだ

まるで墜ちてるんじゃない

身体が浮いてるようだった

羽根が生えてる気分だったんだ

でも思ってたんだけど

僕はいつだって翼を広げてた

ただある訳ないって思ってただけさ

そして本当に

あるはずもなかったんだけどね

肌はとても敏感だった

遠くの太陽で焦げていくのがわかった

実際は全く熱くなくて

焼け爛れてもなかった

ただ単にそうだという感覚さ

感覚は常に正直だ

目で確認出来る現実を正しく理解する

そしてそれ以上のものを恐怖と認識する

または狂気、陶酔、黒白の瞼

即ち生命の束縛

意味を求めることに躊躇いはなかった

寧ろ意味無くしては虚ろそのものだから

意味というものを探さずにはいらなかったんだ

そしてその冒険は簡単なものだった

ポケットに手を入れたら

掴むことの出来る位置に意味は存在していたんだから

ただ、後悔をあげるとすれば

触れることしか出来なかったこと

手に取ってこの瞼に納めることは出来なかった

行動することは出来た

だけど出来なかった

というよりしなかった

だって真実に驚異を抱くことにはもう厭きてたし

何より目を開くことすら面倒だったからね

でも今になっては

あの時意地でも掴み取って

見ておけば なんて思ってるよ

世界に

僕との繋がりを否定出来ないくらいのリアルを

見せつけて

笑いとはしてやりたかったんだ

“ 見てみるよ

誰も僕を知らないとは言えない”

こんな台詞も言ってみたかった

馬鹿だと思っかい？

思ってくれた方が少しは気が楽だよ

骨は肉となり

肉は血となる

血は軀を巡り

軀軀は器となる

器は自我の俘囚となり

自我は心という名に成り下がる

輪廻とも言うけど

それは破壊と再生に過ぎない

もつと簡潔な言葉を探したんだ

そして僕なりの答えが

“無”だ

僕はいつだって翼を広げてた

ただある訳ないって思ってただけさ

そして本当に

あるはずもなかった

それに気づいた時には

僕は空を見下ろしていた

そしてあるはずのない翼を広げて

真っ逆さまさ

とても不思議だったんだ

知ってたくせに

僕が飛べるなんてこと思わせたのは

一体なんだったんだろうつてね

話は遡るんだけど

そして今に至るってワケ

恐怖は全くなかった

だってあれが現実だってことはわかってたからね

でも何故か涙が出る

可笑しいだろう？

何でかって？

だって

飛べると思ったんだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0152h/>

---

むゆるふ

2011年1月25日04時35分発行